

# 「十人十色の“独学”合格ストーリー」



税理士 北村 聰



## 独学を選んだ理由

私の最終学歴は中卒です。当時は税理士を受験する資格が無く、まずは受験資格である日商簿記1級から勉強を始めました。通学という選択もありましたが私が選択したのはカセット通信です。その後、税理士試験でもやはり5科目すべて同じ方法で勉強を進めていました。選んだ主な理由は次のとおりです。

- ①集中できる時間と場所をそのつど選べる。
- ②繰り返し学習することができる。
- ③勉強するときは1人の方が集中できた。



## 独学で工夫したこと

### ① 集中力を高める

繰り返し学習することができる反面、何度もできるという安心感から集中力に欠ける可能性があります。私の場合は1.5倍速で聞くことで集中力を高めています。また、少しの聞き逃しや、気になった点は必ず戻って確認し、理解不足を防ぐということを常に意識して勉強していました。先日、FP試験の勉強の際にDVDを用いて同じ方法で学習しました。

### ② 時間配分

勉強できる時間を選べる半面、先送りになり溜まった教材の山に勉強意欲が喪失する可能性もあります。私の場合、目標設定しながら時間や体調に合わせて勉強していました。たとえば、遊ぶ時はしっかり遊び、頭の疲労が取れた翌日に長時間集中して勉強するなどです。疲れていても気合で勉強するという方

法もあるかもしれません。私の場合、短期集中型なので、できるときに勉強したほうが数倍はかどったのです。

### ③ 勉強する場所

1人のほうが集中できたので、自宅や車など1人になれる環境を探し勉強しました。たとえば、税法は理論暗記が必要ですが、その環境として車の中を多く使っていました。ICレコーダ（当時はカセットテープ）で、暗記した理論を念佛のように唱えて録音・再生をするなど、テープが擦り切れるほど繰り返しました。直前期は、複数の専門学校の答練を教室で受け実践の感覚をつかんでいました。



## 教材選び

教材選びの方法は合格率が高い学校を調べ、そちらへ出向いて講師の方とじっくり話し、教材の見本を見て判断していました。

あれもこれもと手を出したくなりがちですが、1つのテキストに絞って、それを使っていました。「計算問題はアウトプットを重視し、理解できなかった項目はテキストに戻って確認する」という流れでした。



## 本試験10%以内を意識する

直前模試は自分のポジションを知るバロメーターになりますが、私の成績の多くは合格圏外でした。当時、直前模試はある程度出題範囲が定められた試験で、そこを仕上げれば結果も良くなっていたかもしれません。しかし、本試験合格を考えた場合には出題可能性の低い項目はあえて切り捨てて、可能性の高

(オススメします) 会計入コースはtwitter（ユーザー名:kaikeijincourse）でつぶやいています。twitterならではの情報もあります。

（編集部）

い項目に絞って勉強時間を配分していました。直前模試では、ライバルに勝つのが目的ではなく本試験10%以内に入ることが目的と考え、本試験の解き慣れない問題に備え、会計入コースや他校の模試であえて解けない感じを味わい本試験さながらの気持ちになってイメージトレーニングをしていました。



## 実務について思う税理士試験について

税法科目のうち法人税法、所得税法については、いずれかを取得する必要があります。その中で私が選択したのは所得税法でした。

実務に就いて感じたことは、「確定申告は毎年2月から3月にかけて行われるため実務経験が浅いうちは、1年前のことを思い出すのに苦労する。」という話をきいたこともあります。が所得税を体系的に理解したことで確定申告は苦労することはありませんでした。しかし、法人税法を取得していないため就職当初は法人の決算に苦労しましたが、1年を通して法人決算はあったため積み重ねで覚えることができたかと思います。また、受験勉強では自分で勉強方法を考える必要がありました。が、実務の中では迷うことの連続です。受験勉強で身についた判断をする習慣は実務に活かされているのではないでしょうか。



## モチベーションの維持

独学はライバルが周囲にいないのでモチベーション維持が難しいです。モチベーションの維持は、どれだけ試験に合格したいか、という強い気持ちが何よりも大切だと思います。私のモチベーションは、いろいろな仕事をしながら自分探しをしていました。そのため、同級生などは着実にキャリアを積んでいく中、自分だけ取り残された気持ちになっていました。私は、このまま終わるわけには行か

ない！という強い気持ち、自分の存在意義を試験合格に見出していたのかもしれません。



## 周囲の環境

受験時代は自分だけでなく家族や恋人などの周囲にも将来の不安や経済的な負担をかけることが多いかと思います。自分の家族など甘えられる環境があればあえて甘えても良いと思います。そうすることで短期間の合格をすることが可能になるのであれば、合格することが家族や周囲への恩返しと考えて合格へのエネルギーに変えればよいです。実際、私も今年ダメなら諦めてトラックの運転手に戻ると期限を家族に宣言して助けをいただきました。厳しいですが、時間は有限ですので期限を定めて受験勉強に望むとモチベーションに雲泥の差がでると思います。



## 不安との戦いが自信になる！

私は基本的に人生何とかなるさ、と考えるほうで、あまり不安を感じない性格だと思います。そんな自分でも、1科目も合格できない頃は見えない将来、雲を擱むような手応えのない日々にとても不安でした。本当に試験に受かるのかと考えすぎて体調不良になったこともあります。完全に不安を消し去ることは難しいと思います。雲を擱むような日々の勉強の積み重ねが少しづつ自信に変わって来るものだと思います。

では、受験生のみなさん将来一緒に仕事をできる日を楽しみにしております。

### 合格歴

平成10年	日商簿記 1級	合格
平成11年	簿記論 財務諸表論	不合格
平成12年	簿記論 財務諸表論	合格
平成13年	住民税	合格
平成14年	所得税	合格
平成15年	消費税	不合格
平成16年	消費税	合格
平成21年	税理士登録	合格